

人間生活学科による
出張講義の紹介

知って得するプロジェクトマネジメント

担当者：和田 雅子

1. はじめに

2018年4月より、人間生活学科に「プロジェクトマネジメント専修」が開講し、1年生を対象に新しいカリキュラムでの授業がスタートした。今回は新設の出張講義から「知って得するプロジェクトマネジメント」について報告するが、本授業の基盤となっているプロジェクトマネジメント専修の概要について紹介することから始めたい。

2. 「プロジェクトマネジメント専修」について

プロジェクトマネジメント専修は、現代家政専修、社会福祉専修と共に、「ひと」「生活」「地域」をつなぐ3領域の学びを提供する特色ある学科となっている。学修目標は、生活の幅を広げ生活の質を高めるための知恵や技を、他専修と連携しながら身に付けてもらうことである。このため4年間をかけて企業や行政、NPO/NGOなどを舞台に、社会課題を解決するためのプロジェクトを企画・立案できるための必要な知識や技法（ワークショップ、コミュニケーション、社会調査等）を段階的に学習していく。

カリキュラムデザインは、基礎の学びから専門的な学び、コミュニケーションスキル構築のための学びなど、これからの社会に求められる知識・教養・技能をトータルに学ぶことができるのが特徴だ（表1 プロジェクトマネジメント専修カリキュラムデザイン）。

表1 プロジェクトマネジメント専修カリキュラムデザイン

究める 彩る 深める 出会う	←学びの段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> プロジェクトマネジメント専修 カリキュラムデザイン </div>		プロジェクトマネジメントⅢ
		チームビルディング演習	地域資源活用法 マーケティングリサーチ	プロジェクトマネジメントⅠ・Ⅱ
	写真の表現技法 動画の表現技法 インタビュー調査の技法 アンケート調査の技法	ワークショップデザイン基礎演習 ファシリテーショングラフィック入門 インストラクショナルデザイン入門 ファシリテーション演習 アイスブレイク入門 レクリエーション入門	女性リーダーシップ論 組織マネジメント 広報・メディアと女性 社会的起業と女性 国際社会と女性 北海道の文化と女性 統計調査と心理 統計調査と北海道 人間関係と心理	
	議論の技法 プレゼンテーションの技法 デザイン思考の技法 論理的思考の技法 対人コミュニケーションの技法	ワークショップデザイン ワークショップ入門	協同学習入門	プロジェクトマネジメント基礎演習 プロジェクトマネジメント入門 ↓学びの領域
	学びの技法	ワークショップデザイン	ソーシャルプロジェクト	プロジェクトマネジメント

1年次には3つの専修の基礎を十分に学びながら、2年次以降希望の専修へと進んでいく。人間生活学科限定でつくられた新公募推薦制度「地域貢献人材育成枠」とも併せて、新たな本学科の歩みに貢献していきたい。

3. 「知って得するプロジェクトマネジメント」

本出張講義は、プロジェクトマネジメントの入門講義である「プロジェクトマネジメント入門」「プロジェクトマネジメント基礎演習」での内容を、高校の要望に合わせて編集している。高校の授業や、さまざまな活動やイベント、プロジェクト等がある場合、プロジェクトマネジメントの視点を持って活動してもらうことで、より効果的な成果や結果に導くことに資することが講義の狙いである。プロジェクトマネジメントという知識体系は、ビジネス界以外では馴染みがないが、じつは日々の暮らしの中にある数々の出来事やイベントなどにも応用可能だ。この概念を分かり易く伝えることを目的にした『カレーで学ぶプロジェクトマネジメント』¹⁾という書籍等もあり、この知識体系が日常のいろいろな場面で応用可能であり、「段取り八分」という日本のことばに当てはまることが分かる。

3-1 プロジェクトマネジメント概要

出張講義で最初に行うのが、プロジェクトマネジメントの概要を紹介することである。プロジェクトとは、ごく簡単にいえば、新しいことに挑戦する事業であり、また期限があることが特徴である。例えば毎年行われる学園祭でも、企画内容はその年ごとに違うのであるから、運営する側は学園祭というプロジェクトをマネジメントするということができる。組織を例にとると、日々行われる通常業務ではなく、あるプロジェクトが時限付きで立ち上がり、設定された期限までに定められた成果を出す事業がプロジェクトであり、それらの活動をマネジメントすることが、プロジェクトマネジメントである。

現代のプロジェクトマネジメントは、アメリカでの軍事関係のプロジェクトや、NASAなどの宇宙開発事業で、各種業務を効率化したりスケジュールを合理的に調整するためのノウハウを集大成させて誕生した知識体系が中心になって世界に普及していった。

日本で普及しているプロジェクトマネジメントとして代表的なところは、アメリカ生まれのPMBOK（ピンボック）と呼ばれる世界標準の知識体系がある。PMBOKは、ステークホルダー（関係者）やプロジェクトの範囲、コスト、スケジュール、品質などをバランスよく管理して、目的にむかい、プロジェクトを成功に導いていく。また経済産業省（当時）の肝入りで日本発のプロジェクトマネジメントの体系がつくられ、P2M（プログラム&プロジェクトマネジメント）として普及している。P2MはPMBOKをベースにして日本の産業界、社会構造に合わせた知識体系が構築されている点の特徴で、日本プロジェクトマネジメント協会が管理・運営している。本学科でも当協会と連携し、P2Mの知識をベースにした学習体系を導入している。どちらの知識体系も資格制度があり、資格取得後も継続的な講習等を受講して資格を保持する。

3-2 立ち上げ・計画・実行・検証・改善・終結

プロジェクトマネジメントの概要を紹介したあとで、マネジメントの構成要素である「立ち上げ・計画・実行・検証・改善・終結」について、ワークを交えながら伝えていく。

プロジェクトは、最初に立ち上げがあり、そこでプロジェクトの概要が検討されていく。

例えばひとつの課題や目的があり、それを遂行するためのプロジェクトを立ち上げる時、現状分析をしていくことから始めていく。本出張講義では、プロジェクトを行う組織や集団等の能力や機会を最大限生かして現状を改善する「機会発見型」と、現状問題があるからそれをプロジェクトで解決しようとする「問題解決型」について紹介していく。いずれも課題を調査・分析することで、プロジェクトをどのように進めていくか、もしくはプロジェクトを止めるかという判断材料になる。出張講義では、この2つの紹介をしながら実際に課題を定義してもらい分析をする簡単なワークをしてもらう。

ワークで立ち上げの作業を行ったあとは、計画について学ぶ。立ち上げによって決定された内容を、ひとつの企画として生み出していくプロセスである。企画をするためには、どういう企画内容がよいか、狙いや目標、数値目標、スケジュール、業務分担などを整理し、メンバー全員で納得するまで話し合う。出張講義でのワークは、企画書を配布し、そこに時間の許す限り簡単に内容を埋め込んでもらう。ここまで行えれば、「段取り八分」というプロジェクトマネジメントの基本的意味合いを体験できることになる。

実行・検証・改善・終結については、座学で紹介していく。プロジェクトを実行する際には、コミュニケーションやスケジュール管理、プロジェクトが目的の方向に進んでいるか、課題はないか、予算面は大丈夫か、といった項目をチェックして管理していくことが大切であることを伝えていく。そして、そこで見つけた課題点があれば、それを解消すべく改善して、最終的にプロジェクトを終結させるということを紹介する。

最初にも述べたが、プロジェクトマネジメントは始まりがあり、終わりがある事業のことなので、最後に「これで終了」という号令、もしくは何らかの認識に参加メンバー全員が認識することが大切である。そうしたことを最後まで管理していくことが、マネージャーの役割であることも、リーダーシップの考え方に併せて伝えていく。

3-3 プロジェクトマネージャー

プロジェクトマネージャーは、プロジェクトを成功させるためにメンバー間でのコミュニケーションを図りながら、各プロセスを管理していく。メンバーに、活動中このプロジェクトのゴールはどこに位置づけられているか、何なのかを示し続ける役割がプロジェクトマネージャーにはあること、各メンバーにおいてもそれぞれの役割の中でリーダーシップを果たすことから始めることが大事であることを伝えていく。つまり、プロジェクトは参加しているメンバー全員がマネージャーの意識をもつことが大事であり、それがプロジェクトを目指したゴールにたどり着くことができ、成功に導くことになることを伝えていくことが重要である。

注

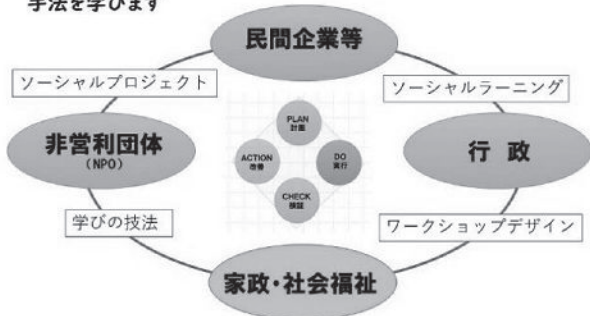
- 1) 勝眞一郎：『カレーで学ぶプロジェクトマネジメント-仕事の成功はダンドリで決まる！』デザインエッグ社，2013

参考文献・引用文献

- 1) 關谷武司・三好崇弘・大迫正弘：『グローバル人材に贈るプロジェクトマネジメント』関西学院大学出版会，2013
- 2) 日本プロジェクトマネジメント協会『プロジェクトの概念 第2版』近代科学社，2018

プロマネ専修での学びのイメージ

女性の視点からのマネジメントと社会貢献の
手法を学びます



プロジェクトとは？

今までにやったことのない
新たなことに挑戦する事業

2

プロジェクトマネジメントとは？

プロジェクトのために、知識、
技術、ツール(道具)を使って
活動すること

= 有効な考え方とツール

3

プロジェクトマネジメント(PM)に 求められること

期限内に完了させる(時間)

予算内に完了させる(予算・コスト)

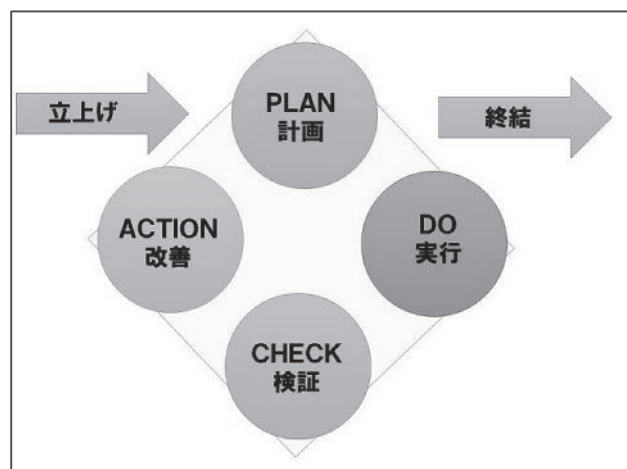
定めた成果を生み出す(範囲・スコープ)

4

プロジェクトサイクル

立ち上げ	問題分析、目的分析 プロジェクト選択、決着等
計画	計画作成、作業の細分化、順序関係の図式 時間見積もり、スケジュール、人員、コスト、リスク管理 コミュニケーション計画等
実行	プロジェクトの将来像提示、全体像の把握 実施体制、メンバーのやる気、チームの成長 進捗把握、計画変更の管理等
検証	プロジェクト全体の確認と改善点の提示、 改善方法検討
終結	持続性のビジョン、最終評価の準備・実施 成果物の作成・報告 プロジェクト終結業務等

5



2018年度 藤女子大学人間生活学科 家庭科・福祉科 出張講義一覧

講義名	講師名	講義内容	家庭科・福祉科教育とのつながり
1 ライフステージごとの「学び」を考える	伊井	なぜ人は「学び」続けなければならないのでしょうか。その問いを誰もが一度は考えたことがあると思います。ただ、小学生の時の自分と高校生の自分、そして社会人になったときの自分では、異なる答えを出すのではないのでしょうか。それぞれのライフステージごとに必要な「学び」とは何かを高校生と一緒に考えたいと思います。	ライフステージ
2 生活に役立つ考え方～円環思考とは～	丸山	私たちは、物事がうまくいかなかったり失敗を経験した時に、よくその原因を考えます。お腹が苦しいのは、昨日お好み焼きを食べ過ぎてしまったからだ…、彼氏にフラれたのは、わがままを言い過ぎてしまったからだ、と失敗の原因を考えて次に同じ失敗を繰り返さないようにします。しかし、私たちの生活の中には原因が特定できずまた変えられないこともあります。両親と意見が合わずストレスを感じている、クラスがヨソヨソしくて居心地が悪いなど、何が原因でどこを変えたら良いかわからないような場合があります。このような時は、円環思考によって状況を捉えることが役に立ちます。授業では、身近な生活の困りごとを解決するための考え方を紹介します。	ライフステージ
3 大学教授…ときどきイクメン	伊井	2016年に育児休業制度を活用した私自身の実体験や日々の生活から、育児に対する「男性」としての立ち位置、家族との協力の在り方を高校生と一緒に考えてみたいと思います。	ライフステージ 家族や子育て
4 フィンランドの幸せな子育て	木脇	今、フィンランドは北欧のなかでもPISA(教育)1位の国として高い評価を得ています。とくに子育てが注目されています。子どもが生まれた時に国からもらえる育児パッケージや、子どもが胎児期から7歳までワストップ支援として家族を見守るネウボラなど国家が子どもを育てる姿勢は素晴らしいものです。もちろん保育所も充実しています。このフィンランドの幸せな子育てはどのようにもたらされたのでしょうか。現地調査の報告をもとにお話しします。みなさんと日本の子育てと比べてみましょう。	家族、保育
5 結婚の経済学	内田	結婚するのは当たり前？結婚して子どもを作るのは当たり前？もはやこれらは都市伝説です。結婚の敷居の高さ、子育ての敷居の高さを素材にして、生活における経済の意味について考えます。	家族、家庭経済
6 働くことと自分らしさ	内田	自分らしい仕事とは何なのでしょう？働く側からすれば、仕事が自分らしいことはよいことですが、雇う側からすれば自分らしさにどんな意味があるのでしょうか。この講義では、働く側から見た自分らしさではなくて、雇う側から見た自分らしさについてお話します。	家族
7 オランダの共生社会	内田	オランダは多様な価値観をもって生きる人々が、お互いに折り合いをつけながら共生する社会を発展させてきました。その一端がワークシェアリングに現れています。ワークシェアリングは、仕事と収入を分かち合うだけでなく、労働時間の短縮によって自由時間を確保する手法です。この授業では、共生の観点からオランダの労働環境についてお話します。	生活時間 家事労働と職業労働
8 少子高齢社会を考える	若狭	わが国は、急激な高齢化の進行と恒常的な低出生率によって、本格的な少子高齢社会を迎えています。それは、家族規模の縮小や世帯構成の変化、労働力人口の減少などの状況を招き、介護や医療、年金など社会保障のあり方に大きな影響を及ぼしています。本講義ではこのような問題を理解するとともに、それらに対する社会福祉の抱える課題について考えます。	高齢者と社会福祉
9 高齢者を差別したことはありませんか？	若狭	高齢者とはどのような人でしょうか。お金持ち、頑固、足腰が弱っている人などでしょうか。また、わが国には「敬老の日」がありますが、高齢者を敬うとはどのようなことでしょうか。本講義では、高齢者に対するイメージが、様々な場面で偏見や差別につながり、場合によっては社会問題になることなどについて学びます。さらに、そうした問題を生じさせないための考えかたや問題解決に向けての社会的な取り組みについて理解します。	高齢者の生活と社会
10 社会保障の考え方	内田	人々の貧困化を防ぐという意味での社会保障は、危機に陥っています。どうしてそうなってしまったのか、また、持続可能な社会保障システムに可能性はあるのかといった点について、年金問題などを素材にお話しします。	社会保障
11 幸せに生きるための支援とは？	丸山	私たちは、誰もが幸せに生きていきたいと願っています。皆さんにとって幸せとは何ですか。夢が叶うこと、健康であること、安心した生活がおくれること、良い人間関係があること、生活に不自由しないこと…。どれも幸せ生きるために大切なことだと言えます。しかし、全てが満たされることはありません。むしろ、どれも不十分であることもあります。社会福祉の実践には、人の生活を幸せにするという目的があります。どんな条件にある人も、その人が幸せに生活できるように支援します。授業では、人を幸せにする支援とは何か、私たちに何ができるかを考えたいと思います。	社会福祉
12 地域福祉を考える～私たちにできることは何かを考えよう～(①～⑤)	小沼	【ねらい】本講義では、私たちの生活の中で身近に感じるテーマを取り上げ、自分たちにできることは何か「気づく」(気づく力)こと、またはその気づきを「吟味する」(考える力)、そして「他者に伝える力」(創る力)の涵養を目指します。 【内容】①地域福祉の考え方を学ぶ ②地域福祉実践例を通して学ぶ ③ボランティア活動を考える ④疑似体験(演習)を通じて考える ⑤①～④を通して、「自分らしくできる福祉活動」を考える	社会福祉 ホームプロジェクト
13 社会福祉の専門職とは	若狭 小沼 丸山	【ねらい】本講義では、社会福祉の専門職(ソーシャルワーカー)に必要な価値、知識、技術を体系的な紹介及びソーシャルワーカーの実践現場の様子を紹介し、進路選択の際の動機づけを高めていきます。 【内容】①社会福祉の専門職(ソーシャルワーカー)の役割・機能を学びます、②社会福祉の専門職(ソーシャルワーカー)の実際の現場を理解します。	社会福祉
14 スクールソーシャルワーカーの魅力	小沼 丸山	小学校や中学校に通う全ての児童・生徒、家族が抱えるさまざまな問題にも対応する社会福祉の専門家として注目されているのが「スクールソーシャルワーカー(SSWr)」です。学校関係者(教職員)や児童相談所などと連携し、問題解決に向けて活躍する事例を通して、スクール(学校)ソーシャルワーカーの魅力をお伝えします。	社会福祉

2018年度 藤女子大学人間生活学科 家庭科・福祉科 出張講義一覧

講義名	講師名	講義内容	家庭科・福祉科教育とのつながり
15 服飾副資材のひとつ、組紐を通して日本文化を理解する	長尾	服飾副資材のひとつに紐があります。この紐がどのようにつくられているかまづは製作をとおして構造を理解しましょう。そして日本ではどのように用いられてきたのか、その歴史を概観し、被服の視点から日本文化について学びます。	衣生活
16 服装が訴えていることは何か？	長尾	人が衣服を着るのは、身体保護や羞恥心によるだけではありません。人間が社会生活を送るうえで欠かせない情報伝達機能を、衣服は持っているからです。この応用例として、本講義では、宝塚歌劇団とディズニー映画を取りあげ、映像や画像資料を用いて、各々の服装表現が我々視聴者にどのような効果を与えているのかを考えていきます。	衣生活
17 食生活と社会環境	岡崎	今日の食に関する課題は複雑、多岐にわたっています。講義では、社会環境の変化と現代の食生活との関係(主に家庭での食生活と内食・中食・外食生活、これらを支える諸産業との関係)について、私たちの日常生活と結びつけて考えていきます。	食生活
18 住まいの計画 ～子ども部屋について考える～	田中	諸外国と日本の子ども部屋では、空間構成や使い方などに多くの違いが見られます。それぞれの国の子ども部屋の事例を通して、世界の住生活文化に触れ、これからの日本の住まいの計画について考えてみます。	住生活
19 消費者市民社会とフェアトレード	内田	自立した消費者の育成をめざす消費者教育推進法では、消費者市民社会の形成を目的に掲げています。この授業では、消費者市民社会とは何か、それはフェアトレードとどのように関わることか、明らかにします。	消費生活
20 2030年までに達成したい持続可能な社会づくり ～国際的に目指す目標(SDGs)と学びのカタチ(ESD)～	松田	格差社会や貧困、環境汚染、紛争、食の安全など、わたしたちを取り巻く社会は問題であふれています。その問題は誰がどのようにして解決するのでしょうか。持続可能な社会づくりへと主体的に関わる「市民」としての「わたし」を意識することで、遠い世界の事から身近な困り事まで、社会はまるで違ったものに見えてくるかもしれません。「2030年の世の中はこうなっていたいよね」と世界が約束したSDGsを通して、わたしたちの「未来」を一緒に考えてみませんか。	消費生活 家庭科全般
21 「貧困と紛争について考える」	木村	カトリックの視点から、国際社会を理解しましょう。特に、貧困と紛争の関係について考えて見ましょう。フィリピンやアフリカの地域を例にとり、実際に体験したことをふまえて説明してゆきます。	消費生活 貧困
22 知って得するプロジェクトマネジメント	和田	毎日行っている活動はプロジェクトではありません。でも1年に1回開催される文化祭などは、プロジェクト、ととらえることができます。そう、プロジェクトは、期限が設定された活動のこと。そしてそれを管理・運営する体系が、マネジメントです。この授業ではプロジェクトマネジメントの概要を、わかりやすく紹介します。	ホームプロジェクト
23 メディアを通して社会を知ろう！ ～広報、広告、ジャーナリズムの紹介～	和田	広報、広告、ジャーナリズム、ということばを耳にしたことがあると思います。テレビやウェブサイトなどでよく目にする広告に比べ、広報とは何を指すのか、ちよつとわかりづらいのではないのでしょうか。ジャーナリズムはどうでしょうか。この授業では、こうしたメディアの違いを、伝え方や役割を通して理解します。	消費生活
24 自分の「役割」と「人生(ライフ・キャリア)」を考える	船木	キャリアとは、ある年齢や場面の様々な役割の組み合わせだと考えられます。そこで、この講義では「今、自分がどのような役割をどのようなアリーナ(人生空間)で演じているのか」を把握して、あらためて「これからの自分のキャリア形成(人生設計)」を考えます。	ライフステージ
25 自分の「生活や学習上の課題(価値観)」と向き合う	船木	1)自分の日常生活や学習するうえで、今、「問題(課題)だ」と思っているさまざまな事柄を分析・検討します。又は、2)普段、自分が意識している生活と仕事(学習)の価値観と、逆に、意識していない価値観を明確にして、今後の生活や学習スタイルを考えます。	ホームプロジェクト
26 相談援助の基本的スキル①～⑥	小沼	【ねらい】本講義では、対人サービス職、特に社会福祉の相談援助の場面に必要なコミュニケーションスキルについて、体験(演習形式)を通じて体得することを目指します。 【内容】①価値観の多様化を知る ②アサーティブ・トレーニング ③観察の技法 ④面接(インタビュー)の技法 ⑤自己覚知 ⑥自己開示とフィードバック他。	社会福祉 家庭・福祉全般
27 「?体験から学ぶ?」学習ジャーナル ～自己理解・他者理解を深めるために～	船木	人の話を聴いたり、人に話しかけたり、相手の気持ちを理解したり、自分の中で起こる葛藤を処理したりという生活に必要な人間関係のスキルは、どのようにすれば身につけることができるのか(学習方法)を考えます。本講義では、一般的な知識を講義から修得する方法ではなく、各自の学びを日常生活の中に定着させるために必要なスキルを「体験から学ぶ」方法として「学習ジャーナル」を紹介しします。	ホームプロジェクト
28 人間関係という「見えない資産」を活かす	船木	人間関係は消費されてしまう資源ではなく、適切な投資によってしかるべき配当が期待できる「見えない資産」です。自分が自分自身の運命や成功を決定できるという考え方は、人とつながらずに人間関係を重視しない生活でその営みがとても難しくなります。本講義では、「相互扶助の精神」を大切に、見返りを求めない他人への援助はめぐりめぐって自分に帰ってくるという循環への投資が、長期的な配当を得ることになることを考えていきます。	ライフステージ 家庭全般

※2018年度から、上記の出張講義は入試課主催の出張講義として実施している。